

基本計画に新たな中央図書館の計画を

市長「審議会等で議論される。そこで市としての方向性を示していく」



田中とも子議員
042-427-1183

市長「図書館を整備すること文化度があがる」



答弁しました。2年前に「市民センター」を考えた

多くの市民から「狭くて蔵書が足りない。ゆとり本や雑誌を読むスペースもない」「もっと広げて充実した図書館にしてほしい」という声が寄せられています。田中とも子議員は中央図書館の新たな充実について質問しました。公立図書館は、子どもからお年寄りまで、市民が誰でも本や資料を無料で借りられ、知識や文化を学ぶ拠点として大変重要な施設です。田中議員は、過去に狛江市の新図書館基本計画をまとめたこともある松原市長に、公立図書館の役割や公立図書館に望むことなどを質問しました。

市長は、「公立図書館は、国民の教育と文化の発展に寄与することを目的とし、そのための役割を持つ施設」であり、「狛江の魅力としても、図書館を整備することで文化度があがる。時代に合った図書館の役割なども検討することが必要なので、公民館、市民活動支援センターなど、総合的に考えていきたい」と答弁しました。

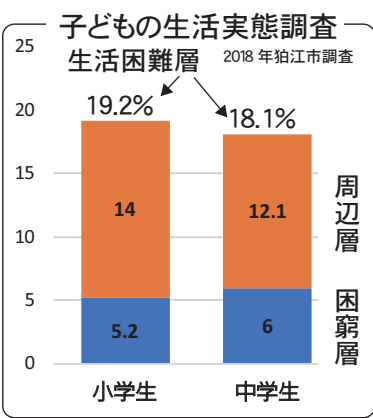
就学援助の基準拡大を 狛江市は生保基準の1.1倍

世田谷区が1.4倍に拡大、給食費は2.06倍に—10月から



鈴木えつお議員
3488-8839

市長「事業全体の中で考えていく」



税が増税される10月から、就学援助の支給基準を、生活保護基準の1.1倍から1.4倍まで引上げます。これは国の高校授業料無償化モデルの基準と同じです。また給食費については2.06倍に引上げます。これは、東京都の高校授業料無償化モデルの基準です。

日本共産党市議団は6月に世田谷区を視察、担当課長は「この間、保護者の要望もあり就学援助の見直しを検討してきた。学校給食費の無償化の議論も出される中、より多くの方々に支援をさせていただく、学校給食費は家計の支出が高いもの一つであり特に基準を広げさせていく」といって「学校を通じて申請書を全世帯に配布させていただいたが、例年より多かった」と話されました。これに要する費用は、全体で8215万円。世田谷区の児童・生徒の合計は狛江市の児童・生徒数の約10倍なので、狛江で実施する場合は世田谷の10分の1程度の予算で実施できます。

鈴木えつお議員は「狛江市の子どもの生活実態調査では、小中学生を持つ家庭で、生活が困難な状態にある家庭が18%、19%にのぼっている（グラフ）。市民生活支援策の一つとして就学援助をまわす、現行の生活保護基準の1.1倍から1.2倍に引上げて援助対象世帯を増やすべき。467万円の予算で実施できる」と提案しました。

市長は「事業全体の中で考えていく」という答弁に「ぜひ充実に関心していただきたい」と重ねて求めました。

子ども議会開催 - 市議会本会議場



小学校6校の6年生 18人が質問

8月3日午前、狛江市議会本会議場で子ども議会が開かれ、市内の小学校6校の6年生18人がそれぞれ2問、3分間ずつ質問しました。傍聴席には保護者や先生方など多くの方が詰めかけました。



質問では「公園にきれいなトイレを設置してほしい」「市としてレンタル自転車を購入してはどうか」「だれでも使える勉強ができる施設をつくってほしい」「狛江駅周辺に新しい駐輪場をつくらしてほしい」「路線バスの本数を増やしてほしい」「水道道路のみずほ幼稚園の近く、セブンスの所に信号機を設置してほしい」「安全な自転車専用の道路をつくらしてほしい」「音楽の街をア

ピールするため、駅前の横断歩道をピアノの鍵盤のように塗ってほしい」など、たくさん提案が出されました。市側は市長や副市長、教育長、各部長が「信号機の設置は調布警察署に伝えていく」「レンタル自転車は情報を集め考えていく」「駅前の駐輪場はスペースの問題があるが、商店街の方々とも話し合いながら放置自転車ゼロをめざしていく」など丁寧に答えました。

最後に教育長がいさ「今日はみなさんそれぞれ自分の意見を堂々と述べていました。6年生になると政治の勉強もすると思います。18歳になると選挙権も与えられます。今日の体験をみなさんの今後の人生に生かしてほしい」と述べました。